

芸術科（音楽Ⅰ）学習指導案

平成26年10月16日（木曜日）第3校時音楽室 指導者

1 題材名 日本の伝統をつたえる ～京鹿子娘道成寺に見る日本の音楽文化～

2 考察

(1) 題材観

本題材は、高等学校学習指導要領音楽Ⅰにおける以下の指導事項を指導する題材である。

B 鑑賞

- ア 声や楽器の音色の特徴と表現上の効果とのかかわりを感じ取って鑑賞すること。
- イ 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して鑑賞すること。
- ウ 楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲者及び演奏者による表現の特徴を理解して鑑賞すること。
- エ 我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴を理解して鑑賞すること。

本題材では、我が国の伝統的な芸能における音楽の役割や魅力を味わい、それらを手掛かりとして、特に総合芸術としての歌舞伎に焦点を当て、文芸・舞踊・演劇など様々な分野との結び付きを意識するとともに、歌舞伎が多くの諸芸能の要素を取り入れながら江戸の庶民の文化として独自の発展を遂げたことを理解し鑑賞する。

- 『京鹿子娘道成寺』 初世杵屋弥三郎 作曲 宝暦3年（1753年）初演
歌舞伎女形舞踊の最高峰の一つであり、物語の枠組みは能『道成寺』と変わらない。能の謡を長唄に取り入れた謡ガカリや竹本、当時の流行歌など様々な音楽に合わせて主役である白拍子が一人で踊りきるため、能『道成寺』の面影はほとんどなく、凝縮された表現を貫く能とは対照的である。
- 『道成寺』 観世小次郎信光 作（伝） 室町時代後期初演
安珍・清姫伝説の後日譚の形をとる能の演目。見せ場の一つである乱拍子は、小鼓方の掛け声と小鼓の音、シテの舞のみで演じられ、両者の息づかいが我が国の伝統音楽特有の間（ま）を生み出している。

(2) 生徒の実態及び指導方針（女子40名）

本校では、生徒の実態や要望を鑑みて、入学時に芸術科の必修科目として音楽Ⅰか美術Ⅰを選択履修とする教育課程を編成しており、Ⅰを付した科目については、4組までが音楽又は美術の履修者が混在する学級で、2学級が2科目を同時展開で授業を実施している。5組と6組については、音楽選択者のみでの学級編成であり、各学級で授業を実施するため、学級の雰囲気そのまま授業の雰囲気となりやすい。事前の授業参観において、5組は音楽活動全般に対して積極的に取り組む姿勢が見られる学級であり、学級編成上の特徴が出ている学級であると考えられる。

鑑賞の学習、及び我が国の伝統音楽に係る学習については、年間指導計画上、本題材の後に計画されており、上記の学習内容に対する関心・意欲・態度や鑑賞の能力については未知である。

この状況を踏まえて、1学期に実施した『組曲 展覧会の絵』より「プロムナードⅠ～Ⅳ」（M. ムソルグスキー作曲／M. ラヴェル編曲）を鑑賞する実態調査の概要と結果は、以下のとおりである。

- ① 4曲を聴き、共通する音楽を形づくっている要素である「旋律」を記述する。
 - ② 4曲の中から1曲を選び、二つ以上の音楽を形づくっている要素を根拠として（②-1）、他の曲と比較しながら気に入った理由を述べる（②-2）。
- ①及び②-1では、楽曲の音楽を形づくっている要素を知覚・感受する能力を、②-2では、知覚・感受した音楽を形づくっている要素を根拠に、音楽のよさや美しさを文章として表現する能力を、記述形式の質問紙で調査した。

①において、旋律の知覚・感受ができていない生徒が31名に対し、不十分な生徒が5名であった。②-1において、二つ以上の要素を挙げ説明している生徒が29名に対し、不十分な生徒が7名であり、

②-1で知覚・感受した要素を基に、②-2において他の曲と比較しながら説明している生徒は18名で、不十分な生徒と同数であった。また、②-1で二つ以上の要素の知覚・感受している29名のうち、②-2で他の曲と比較しながら説明できている生徒は、16名であった。

この結果から、音楽活動全般の手掛かりとなる音楽を形づくっている要素の知覚・感受については、80%以上の生徒が達成しているが、楽曲のよさや美しさについて、条件に合わせて文章を書くことができる生徒は50%であることが分かった。

設問番号	内容	できている	不十分
①	「旋律」の要素の知覚・感受	31名 (86%)	5名 (14%)
②-1	二つ以上の要素の知覚・感受	29名 (81%)	7名 (19%)
②-2	②-1を基に他の曲と比較しながら説明	18名 (50%)	18名 (50%)

(調査対象36名)

3 研究との関わり

本研究では、鑑賞の学習指導において、音楽を形づくっている要素を知覚・感受させるための学習活動の工夫である「知覚・感受に関するアプローチ」と、知覚・感受した音楽を形づくっている要素と音楽のよさや美しさを結び付けて価値判断するための適切な問いである「価値判断に関するアプローチ」とで構成される、「創造的アプローチ」を設定している。本研究では、設定された「創造的アプローチ」について生徒が思考・判断することで、学習内容の理解がより一層深まると考える。

具体的には、本題材全体を通じて、作者の立場で楽曲を価値判断したり、歌舞伎が多くの諸芸能の要素を取り入れながら江戸の庶民の文化として独自の発展を遂げ、今日まで継承されてきたという歴史的な事実について価値判断したりして、創造的な鑑賞の能力を伸ばしていくことができると考える。

4 題材の目標

『京鹿子娘道成寺』の鑑賞を通して、我が国の伝統音楽における声の音色の特徴と表現上の効果との関わりを感じ取ったり、謡曲・義太夫節・長唄などの音楽の特徴を理解したりして、歌舞伎の音楽が、能や文楽などの音楽の影響を受けながら、江戸の庶民の文化として発展し、今日まで続いていることの理解を深め鑑賞する。

5 指導計画 (全4時間予定)

時間	過程	伸ばしたい資質・能力		主な学習活動における「創造的アプローチ」 (知覚・感受、※価値判断)と【評価規準】
		活用させたい知識等	思考力・表現力等	
第1時	課題把握	・義務教育段階で学んだ日本の音楽のイメージ	・自分の考えを表現する力	・能(謡)、文楽(義太夫節)、歌舞伎(長唄)の音楽のイメージをもつ。 ・謡、義太夫節、長唄を比較し、それぞれの特徴を聴き取る(比較聴取)。【関①】
第2時	課題追求 ①	・前時で聴き取り、感じ取った謡、義太夫節、長唄、それぞれの特徴 ・前時で理解した能、文楽、歌舞伎の成立の歴史 ・前時で理解した三味線の伝来に関する知識	・能、文楽、歌舞伎の成立の歴史とそれぞれの音楽の特徴とを関連させて思考する力 ・自分の考えを支える理由を考える力 ・自分の考えを表現する力	・前時で知覚・感受した音楽を形づくっている要素など、音楽の特徴を発表し合い、再度鑑賞する(共有・再鑑賞)。 ・『京鹿子娘道成寺』の中の二つの場面の音楽を視聴し、それらを比較しながら謡、義太夫節、長唄のどれに似ているかを音楽的な特徴から考える(比較聴取)。 ※能、文楽、歌舞伎が発展した時代や地域、担い手(文化的・歴史的背景)とそれぞれの音楽の特徴とは、どんな関連があるか、聴

第3時	課題追求②	<ul style="list-style-type: none"> 第1時で聴き取り、感じ取った謡、義太夫節、長唄、それぞれの特徴 第1時で理解した能、文楽、歌舞伎の成立の歴史 第1時で理解した、三味線の伝来に関する知識 	<ul style="list-style-type: none"> 能の謡と歌舞伎の謡ガカリを比較し、その特徴を記述する思考力・表現力 音楽的な特徴と表現上の効果との関わりについて、歌舞伎の作者の立場で思考する力 自分の考えを支える理由を考える力 自分の考えを表現する力 	<p>き取ったことや見たこと、得た知識などを基に仮説を立ててみよう 【鑑①】</p> <ul style="list-style-type: none"> 能と歌舞伎の場面を比較しながら視聴し（比較聴取）、楽曲の雰囲気や声や楽器の音色を知覚・感受する。 謡と謡ガカリを歌ったり（再現）、歌ったことを通して線や記号で表現したり（視覚化）して、音楽的な特徴と表現上の効果との関わりについて、自分なりの意見を持ち、クラス全体で交流する。 <p>※『京鹿子娘道成寺』の謡ガカリと【乱拍子】にどんな工夫をしたか、Vで聴き取ったことや感じ取った効果を中心に、あなたが作者になったつもりで考えてみよう 【鑑②】</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 第1時で理解した能、文楽、歌舞伎の成立の歴史 歌舞伎の長唄に能の謡や文楽の義太夫節、流行歌や民謡の要素が含まれていること 	<ul style="list-style-type: none"> 聴き取ったことを基に、長唄のよさを思考し、表現する力 歌舞伎が江戸の町民文化として愛されるようになったことについて、その考えを支える理由を思考する力 	<ul style="list-style-type: none"> 『京鹿子娘道成寺』全体の流れをダイジェストで鑑賞し、長唄の特徴を能の謡と比較しながら価値判断する。 <p>※能の謡と比較しながら長唄の特徴を説明しよう 【関②】【鑑③】</p> <ul style="list-style-type: none"> 歌舞伎のよさや美しさについて、自分なりの価値判断をし、創造的に味わって聴く。 <p>※『京鹿子娘道成寺』が江戸時代から庶民に愛され、現在まで250年以上も上演され続けている理由を考え、具体的な場면을挙げて書こう 【関②】【鑑③】</p>

6 本時の展開（1 / 4）

- (1) **ねらい** 『羽衣』『義経千本桜』『勸進帳』を聴き、我が国の伝統音楽の種類、その文化的・歴史的背景、声の音色の特徴と表現上の効果に関心をもつとともに、謡曲、義太夫節、長唄の音楽的な特徴（音色、リズム、旋律など）を理解して聴く。
- (2) **準備** 教科書、ワークシート（Ⅰ～Ⅱ）、DVD
- (3) **展開**

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (○生徒への支援 ◇評価)
1 我が国の伝統的な舞台芸術の音楽や舞台の雰囲気について、現時点での知識や各自のイメージを〈ワークシートⅠ〉にまとめクラス全体で交流する。	10分	◇ 我が国の伝統音楽の声の音色の特徴と表現上の効果との関わり、楽曲の文化的・歴史的背景、謡、義太夫節、長唄のそれぞれの特徴に関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。 (観察、発言、ワークシートⅠ～Ⅱ【音楽への関心・意欲・態度①】)
2 A 能、B 文楽、C 歌舞伎の代表的な演目（A …		

『羽衣』、B…『義経千本桜』、C…『勸進帳』の一部を視聴し、声や音楽の音色の特徴やその雰囲気について、それぞれ〈ワークシートⅡ〉にまとめる。	30分	
3 A、B、Cの音楽について〈ワークシートⅡ〉の内容をクラス全体で交流した後、それぞれ能、音楽、歌舞伎であることや文化的・歴史的背景を知る。	10分	○ 教師は、交流したことを黒板で整理し、その中から文化的・歴史的背景（中心となった土地、文化の担い手、三線の伝来と三味線への改良）について説明する。
4 三つの舞台芸術を再度鑑賞する。		

本時の展開（2 / 4）

- (1) **ねらい** 『京鹿子娘道成寺』の〔道行〕と〔クドキ〕を視聴し、前時で学習した内容と結び付けながら、〔道行〕と〔クドキ〕の音楽的な特徴（音色、リズム、旋律など）を理解して聴く。
- (2) **準備** 教科書、ワークシート（Ⅲ～Ⅳ）、DVD
- (3) **展開**

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (○生徒への支援 ◇評価)
1 前時で視聴した三つの舞台芸術の音楽について〈ワークシートⅡ〉の内容を再度クラス全体で交流した後、それぞれを視聴し、声や音楽の音色の特徴やその雰囲気について、〈ワークシートⅡ〉にまとめる。	10分	◇ 我が国の伝統音楽の声の音色の特徴と表現上の効果との関わり、楽曲の文化的・歴史的背景、謡、義太夫節、長唄のそれぞれの特徴に関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。 (観察、発言、ワークシートⅢ～Ⅳ【音楽への関心・意欲・態度①】)
2 『京鹿子娘道成寺』のあらすじを知る。	20分	◇ 謡、義太夫節、長唄の音色、リズム、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感じながら、それぞれの音楽の特徴を理解して聴いている。 (観察、発言、ワークシートⅢ【鑑賞の能力①】)
3 第一段〔道行〕と第八段〔クドキ〕の場面を、一度目は音声のみを、二度目は映像も併せて視聴しながら、それぞれの声や楽器の表現について、音色と旋律の特徴を〈ワークシートⅢ〉にまとめる。		
4 〈ワークシートⅢ〉の記述をクラス全体で共有し、〔道行〕では義太夫節が、〔クドキ〕では長唄が用いられていることを知る。		
5 ここまで聴き取った謡、義太夫節、長唄の音楽的な特徴と文化的・歴史的背景との関連について	20	○ 教師は、生徒の発言から歌舞伎に義太夫節の要素が取り入れられていることを示す。

〈ワークシートⅣ〉に仮説を立て、クラス全体で共有する。	分
6 [道行] と [クドキ] の場面を再度視聴する。	

本時の展開 (3 / 4)

- (1) **ねらい** 『道成寺』と『京鹿子娘道成寺』に共通の詞章部分(謡、謡ガカリ)の声の表現の特徴や囃子方と舞踊の関わりを比較鑑賞しながら、音色、リズム、速度、旋律の知覚・感受を手掛かりにして、謡と長唄のそれぞれの音楽的な特徴と表現上の効果との関わりを感じ取り、よさや美しさを創造的に味わう。
- (2) **準備** 教科書、ワークシート(V~VI)、DVD
- (3) **展開**

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (○生徒への支援 ◇評価)
1 能『道成寺』と歌舞伎『京鹿子娘道成寺』に共通する詞章「花の外には松ばかり〜」(謡、謡ガカリ)と[乱拍子]を視聴し、それぞれの雰囲気や声や楽器の音の音色の特徴について〈ワークシートV-①〉にまとめる。	10分	
2 謡と謡ガカリを視聴し、声の音色や速度についてそれぞれの特徴を感受し、〈ワークシートV-②〉に記入した後、4人のグループでワークシートの内容を交流する。	30分	○ 能と歌舞伎の映像に合わせてうたい方をまねしたり、それぞれの音楽的な特徴を比べたりしながら進める。
3 グループで、謡と謡ガカリの音の高さや音のつながり方、強弱を示す記号を用いて、旋律を〈ワークシートV-②〉に視覚化し、それぞれの特徴をとらえる。		◇『道成寺』と『京鹿子娘道成寺』のそれぞれの音色、リズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、声の音色の特徴と表現上の効果との関わりを感じ取り、謡、長唄のそれぞれの特徴についての理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。 (観察、発言、ワークシートV・VI【鑑賞の能力②】)
4 [乱拍子]を含めて、謡と謡ガカリを視聴する。		○ 教師は書画カメラを用いて発言する生徒の〈ワークシートV〉をクラス全体で共有するとともに、様々な発言の中から次時の学習内容(文化的・歴史的背景)に関わるものを取り上げて、生徒がそれらを意識できるようにする。
5 舞踊、衣装の様子や〈ワークシートV〉の内容を踏まえ、『京鹿子娘道成寺』の作者の立場になって、作者が工夫した点について自分なりの意見を〈ワークシートVI〉に整理し、クラス全体で交流する。		
6 個人で考えをまとめ交流したり、まねて歌った		

りした経験を生かして、再度、謡と謡ガカリを鑑賞する。	10分
----------------------------	-----

本時の展開（4／4）

- (1) **ねらい** 前時までに興味・関心を持ったり、知覚・感受を深めたりしたことを生かして長唄を聴き、長唄や総合芸術としての歌舞伎のよさや美しさについて、文化的・歴史的背景と関連させて自分なりの価値判断をし、創造的に味わって聴く。
- (2) **準備** 教科書、ワークシート（Ⅶ）、DVD
- (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (○生徒への支援 ◇評価)
1 前時までの学習内容と『京鹿子娘道成寺』のあらすじを確認し、〈ワークシートⅦ〉の内容を意識しながら〔道行（前半）〕〔クドキ〕〔乱拍子〕と第十段〔手踊り〕第十一段〔鈴太鼓〕を鑑賞する。	15分	
2 これまでの学習を踏まえ、声や楽器の音色、速度、旋律、強弱などについて具体例を挙げ、長唄の音楽的特徴を〈ワークシートⅦ-①〉に書く。 3 これまでの学習を振り返り、歌舞伎やその演目である『京鹿子娘道成寺』が現在まで上演され続けている理由を『京鹿子娘道成寺』の具体的な場面を挙げながら〈ワークシートⅦ-②〉に書く。	20分	◇歌舞伎の音楽が、能や文楽などの音楽の影響を受けながら、江戸の町民文化として発展し、今日まで続いていることを理解して鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。 (観察、発言、ワークシートⅦ【音楽への関心・意欲・態度②】) ◇音色、リズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感じながら、『京鹿子娘道成寺』の文化的・歴史的背景を理解したり、自分にとっての楽曲の価値を考えたりして、我が国の伝統的な音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。 (観察、発言、ワークシートⅦ【鑑賞の能力③】)
4 〈ワークシートⅦ〉の内容を基に意見交流し、〔手踊り〕〔鈴太鼓〕と第十二段〔鐘入り〕を再度鑑賞する。	15分	